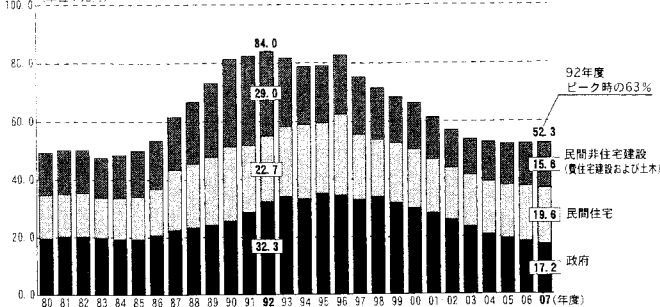


# 官公庁関係情報

建設投資額（名目）の推移  
（単位：兆円）



## 国土交通省発表

### 平成19年（2007年）度建設投資見通し

国土交通省は6月、07年度の建設投資見通しを発表した。投資総額（名目）は前年度比0.1%増の5兆2千340億円で、微増ながら2年連続のプラスになる見込み。内訳は政府建設投資が1兆7千700億円（前

年度比6.8%減）、民間建設投資が3兆5千170億円で（同3.9%増）で、政府部門は9年連続で減少するが、民間部門が4年連続で伸び、全体を下支える。

07年度の建設投資総額は、ピークだった92年度の約63%の水準となる。

政府部門の投資額の内訳は、土木が1兆5千440億円（同5.9%減）、非住宅が1兆2千200億円（同17.6%減）、住宅が5100億円（同5.6%減）と見込む。07年度当初予算では国の一般公共事業費、地方単独事業費とも前年度比で削減が続いており、投資額の大幅な縮小が避けられない。

民間部門の投資額の内訳は、住宅が1兆9千5900億円（同2.6%増）非住宅建築が9兆9500億円（同5.0%増）、土木が5兆6300億円（同6.8%増）の見通し。国交省は、景気回復に伴う雇用情勢や家計の改善を背景に住宅投資は引き続き底堅く推移するとみている。

非住宅建築と土木の投資額の合計は前年度比で5.6%増となり、設備投資が堅調なことから伸び率は前年度の年度に比べて1.5ポイント拡大する見通し。前年度の設備投資は主に製造業がけん引したが、07年度は非製造業でも増加するとみている。

（国土交通省 発表資料より）

## 工法・新製品紹介

### ALEX工法

（小型軽量硬質地盤掘削機）

NETIS登録番号：KT-060018-A

特許登録番号：第3158151号 第3428917号

ALEX：Auto chucking and Low leaders  
Excavation method

従来、硬質地盤を対象とした基礎工事は大型杭打機等を用いて山留杭、既製杭などの施工を行ってきました。しかし、これらの機械では、市街地、住宅地、山間部といった建物密集地や搬入路、施工ヤードの狭い場所、屋内での施工は不可能でした。ALEX工法は施工能力を落とすことなく、これらの問題を解決する工法であります。

ALEX工法の主な特長をご紹介します。

#### 1.コンパクトな機体

機体本体が全高9.95m（最小高さ7.95m）、全幅3.05m、全長7.24mとコンパクトなため、組立・解体・設置の時間が短縮でき、狭隘地等の施工も可能です。

#### 2.強力なオーガモーターを採用

オーガモーターは油圧式を採用しており160KN・m（16t・m）の強力なトルクにより硬質地盤の削孔が可能です。

#### 3.少排土削孔

スクリーには圧密板を装備し、上砂を孔壁に押し付けながら削孔を行うため、孔壁の崩壊を防ぐこと

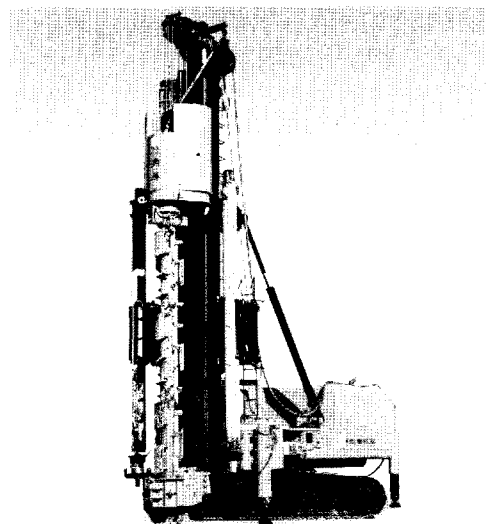
が出来る上、排土量も少なくできます。

#### 4.高い安全性

リーダー高さが低だけでなく、スクリーロッドの接続も自動で行うため、高所作業がなく安全です。

#### 5.高い施工精度

機械本体に掘削時間、鉛直度、掘削深度、オーガートルク、押込力、引抜力を検出する施工管理記録装置を搭載しています。オペレーターはこれらの情報をディスプレイで確認しながら操作できるため、精度の高い施工ができます。



ALEX機全景

（株）角藤 堀 昭広